

【体験談】

『私の肝臓がん早期発見で治癒』

田 端 実 造

この『OPCクリック』のスペースをお借りして、個人的な病気について少しばかりお話をさせて頂く機会を得たこと、誠に有難うございます。また今後、何かのご参考になれば幸いと思って居ます。

20年以上前から掛かりつけの大病院で、去る8月定期検査で消化器系統を診て貰いましたところ、担当医から直接私に向かって肝臓癌と言われ、一瞬驚きました！！

いつになく平常心を保っていたが、宣告されると80歳を超えている私の頭は真っ白となり、何か落ち着きませんでした。

2年前にお腹のCT検査をして頂いた時は、主治医は何も異常が認められないから安心して良いと申されました。

しかし今年8月にCT検査を実施して貰ったところ、いつもでしたら検査を終わったら直ぐ帰り、次回の診察に結果を知らされていましたが、今回は、CT検査後診察となり、主治医は、フィルムの画像を見ながら、大きさは2センチの肝臓がんが出来ていると申され、手遅れにはなっていないが、早期発見であると告げられました。

幸いにも、いまの内に処置をしておけば治る様な話をしてくれました。大きな癌であれば、危険なような事を申され、そして主治医は、家族にも詳しく説明するので、近いうちに一緒に来院して下さいと話され、そして直ぐに入院するようになりました。知らされてから入院まで2週間でした。

家に帰ってネットで調べたら、肝臓がんは、全く自覚症状が出てこない病気で、痛みや苦しみや何もない症状であることが書かれていました。・・・・・・なるほど私も全く症状が出ないし、該当しているかと理解をしました。

宣告されて2週間後に入院し、肝臓がんの治療が始まりました。

主治医は、この種類の病気を治すには、大きく分けて3つの方法があり、当院では、先ず第一は、腹部血管造影検査を施し、カテーテルという直径1～2mmの細長い管を血管に入れ、造影剤という薬を注入しながらX線写真を撮影して、病気を正確に診断する。

その際、カテーテルから治療のために抗がん剤を注入する。これは肝動脈抗癌剤動注療法と言うが、早い段階でこの治療を行うと効果が期待できる。

主にエコーやCT, MRIで病気を発見することができ、このカテーテル検査では、癌の個数、大きさを把握し、癌の細部まである程度判ると言われました。

第二は：局所療法

放射線で治療する方法（ラジオ波）

第三は：手術治療

お腹にメスを入れる方法（最悪）

癌の大きさなど考慮して、以上3つの方法の中より選択するそうです。大きくなっていたり、個数がある場合は、カテーテル治療で処置することは無理だと申されました。

幸い私の癌は2センチ位で、1個でしたので、カテーテルで行うと申されました。主治医を信じて、まな板の鯉となった訳です。

第一の選択方法：－ カテーテルの処置を選択したので少し詳細に説明いたします。

大腿部の付け根（そけい部）を局所麻酔後に穿刺して、カテーテルをその下を走る太い動脈（大腿動脈）に挿入し、目的の血管まで進め、そこから造影剤を流しながら様々な方法で撮影します。

カテーテルを扱う特殊専門医の指示に従って、呼吸をしっかりと止めていれば問題なく終了します。

この検査・治療は、通常は1時間半程度だそうですが、私の場合は、丁度2時間要しました。通常2・3時間後、ベッド上で安静にして、異常がなければ、食

事とトイレの際は体を動かしても大丈夫ですが、それ以外の時は翌日までベッド上で安静にするよう指示されました。

私の治療が30分ほど余計に要したのは、高齢により呼吸をしっかりと止めたり、息を吐くことが通常より苦しくて出来ないからの様でした。私は、この処置が一番苦しかったので、途中で中止して貰おうかと思いましたが止めれば命がないと思って頑張りました。

看護師に水に濡らしたガーゼで口の中全体を拭いてもらいながら治療は続きました。

今思うと、この呼吸（吐く・吸う）が一番辛く体力を消耗させ抵抗力を減らしたと思って居ます。

結果について；－ カテーテルの処置をしている最中に癌が消えたかどうか判るそうですが、再確認を行うため、翌日CT検査を行い、最終的に患者と家族に説明し、肝臓がんが消滅していることを述べられました。安堵の一瞬でしたし、本当に嬉しかったです。

入院してから退院までの10日間で済みましたし、早期発見・早期退院で自分の体力があれば普通に何でも食べて良いし体は自由に動かしても構わないと申されました。

今後は、定期的にCT/MRIで調べて再発を防止すると申され、私は癌と診断されたら命は余命僅かと思っていましたがそうで無くて済みそうでした。現代医学の発達のお蔭と思いながら初期肝臓

癌は治るし、まだ生きられると身勝手な判断と思いながら現在の心境を語らせて頂きました。

今後、撮影旅行、趣味のカメラ、パソコン等で楽しむことが生きがいと思って居るところですが、なかなか世の中は甘くはないと自問している所です。そこで大切なことは、体力アップに専念することだと思い、81歳にして再挑戦をする事にしました。

一般的に80歳を超えれば誰でも何処か具合の悪い個所があると思いますが、どうやってそれを克服するか？抵抗力が弱っている体を如何に強くするか？この改善が出来れば、期待している米寿と2回目の東京2020年のオリンピックを迎えられると信じて神に祈ることにしました・・・・・・・・。信仰心も大事な事と思って居ます。

私の先輩達が、日頃体力づくりに頑張っていることを知っています。

今年に入ってから池上文化センターで、会員の小野忠男様が中心になって、毎週金曜日にパソコン同好会を開催しているので仲間になり、そこで野崎会長が1時間余りの体力向上の為の新体操―自彊術指導を習練して頂き、私にはなんとなく合っている様ですし頑張っています。更に足腰を強くしないといけないと思っ

て居るところです。実行！実行！のみが長生きの秘訣であると思いつつ、面白くないお話をして悪しからずお許し下さい。

結びとして：私の病気体験談を語り、直接パソコンに関係ないことを述べさせて頂きましたこと、編集委員長の配慮にお礼申し上げます。

おわり

平成25年10月21日

例 会 の 動 向

2年前と比べて、現在の例会は相当変化している。

スタッフを勤められた加藤さんが退会され、藤田さんも退任される意向だ。樫田さん・三田さん・金井さんが例会スタッフを辞められ、瀬川さんが手直し塾をやめて何でも相談も縮小する方向にある。

それに代わって、山川さんに「初級者コース」例会を新しく始めていただいた。伊山さんが「画像」例会を新シリーズ化して内容を一新された。今後も時の流れに合わせて変化していかなければならない。

現在の課題は、新入会員に対する指導である。始めたばかりの初心者も受け入れようとしているが、必ずしも受け入れ態勢が充分ではない。

初心者の指導体制の確立が、喫緊の課題であろう。